

EPFL 「Bachelor Trip 2010 JAPAN」
Faculty of Life Sciences の学生を招待して

生命理工学研究科・生物プロセス専攻・助教
金丸 周司

平成 22 年 7 月 13 日 (火) すずかけ台キャンパスに Ecole Polytechnique Fédérale de Lausanne (EPFL) ・ Faculty of Life Sciences の卒業直前の学部生 64 名 (+引率者 2 名) が訪れました。彼らは毎年学生の代表を中心にして訪問国を決め、その国に 1 週間程度滞在し、大学や研究機関を巡る「Bachelor Trip」を企画しています。今年の訪問国は日本と決まり、その最初の訪問機関として本学生命理工学研究科ならびにすずかけ台キャンパスが候補として上がり、受け入れる運びとなりました。

EPFL はスイスに 2 つしかない国立の工科大学の 1 つ(もう一つは ETH Zurich) で、レマン湖畔に位置するフランス語圏のローザンヌにあり、本研究科の JST 若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP) のパートナー機関のひとつです。

2 月の初旬に本研究科の三原久和教授宛に訪問の打診が有り、まず ITP プログラム等でスイス滞在経験のある、もしくは今後滞在予定の大学院生を中心に、企画・当日のスタッフを募り 6 名が最初の打合せ会議に集まりました。その後、更に手伝ってくれそうな学生にスタッフが声を掛けて最終的に、9 名の院生スタッフを中心に、私を含めた教員 3 名、ITP 事務員 1 名で準備を進めました。EPFL 側が依頼してきた日時以外には何も決まっていない状態から、研究と講義の合間を縫ってほとんど院生スタッフが、プログラムの作成・案内する研究室の選定と依頼・当日の細かいスケジュールの調整等を 5 回の会合を経て、手作りで作製し招待する準備を整えました。

当日は、いつ雨が降り出してもおかしくない蒸し暑い曇り空の中、宿泊先である日本橋のホテルより EPFL 学生が昼前すずかけ台駅に到着し、スタッフの案内で黒地に EPFL とスポンサーのロゴが入った揃いの T シャツを着た 64 名全員、すずかけホールラウンジに集まりました。事前に 3 本ほど到着時刻の違う列車を案内していたので、三々五々分かれて来るものと思っていたので、受付で

の名札・大学案内・お弁当の配布にやや手間取ってしまいましたが、ほぼ予定時刻通りに全員でお弁当を食べ始めました。院生スタッフは、最初は緊張気味に各々 7 名程度の EPFL 学生が座っているテーブルに分散して一緒にお弁当を食べはじめたのですが、EPFL の学生から積極的に一つ一つのおかずについて聞かれると、説明しながら打ち解けていく雰囲気でした。和食中心のお弁当でしたのでフォークも用意していましたが、ほぼ全員器用にお箸を使って食べていた姿が印象的でした。



お箸で楽しそうにお弁当を食べる EPFL 学生

昼食後は、すずかけホールに移動し交流セッションを行い、本研究科の相澤康則講師の司会で、三原教授による本学ならびに生命理工学研究科の紹介、Sacha Sidjanski 教授による EPFL の紹介に続き、EPFL 留学経験のある鈴木智亮君(三原研)、ジュネーブに留学経験のある會田祐輔君(広瀬研)、チュニジアからの留学生 Yasmine Assal さん(小島研)による留学体験や研究紹介が始まると、身を乗り出して熱心に聞き入る学生も見られ、Q&A セッションでは英語とフランス語が入り乱れて活発なディスカッションが行われました。



EPFL 学生の質問に答える 3 名の発表者

続いて、EPFL 学生代表 3 名による学生生活や卒業後の進路等についての発表が行われましたが、今まで発表経験が少ないためか、やや緊張気味に自分の発表をこなし、終わったらほっとして笑顔になっていたのが初々しく微笑ましく思えました。



緊張気味に発表する EPFL 学生代表

彼らの発表で興味深かったのは、卒業後の進学率が高いことと、その進学先が必ずしも EPFL だけでなく欧米全体を視野に入れていることでした。このことは、Sacha 教授が EPFL の紹介で強調していた「国際的でグローバルな環境 (110 の国と地域出身の教員・学生、教員の 65% が外国人、学生の 45% が留学生)」と共に非常に驚かされました。



訪れた研究室で熱心に説明を聞く EPFL 学生

その後、大岡山での会議が終わり大急ぎで戻ってこられた北爪智哉生命理工学研究科長による歓迎の挨拶の後、2 時間かけて B 棟・J2 棟の本研究科の 3 つの研究室とフロンティア研究棟「東工大

新技術コーナー」を EPFL 学生 8 名・1 グループとして、計 8 グループを連れて院生スタッフがキャンパスツアーを案内しました。

小雨交じりの中、坂の多いすずかけ台キャンパスを 2 時間歩いて回った為、ツアーから戻ってきた学生さんは皆疲れ切った表情でしたが、「疲れたけど、とても楽しめた」といった感想が多く、満足していただけただけようで安心しました。

こうして、予定通り無事に EPFL の学生を招待することができましたのも、企画から準備、当日の発表・キャンパスツアーの案内まで、全て院生スタッフの努力の賜物です。彼らに後から聞いたところ、「大変だった」というような感想ではなく、EPFL を含めた留学に興味を持ってくれたり、今回の交流がいい刺激になったり、自分の語学力の向上をめざすきっかけになったりと各々ポジティブに今回のイベントに取り組んでくれていたことに非常に嬉しく思いました。

最後になりましたがキャンパスツアーにご協力いただいた岡田研究室・小島研究室・丹治研究室の皆様、フロンティア研究機構「東工大新技術コーナー」の皆様にご心より御礼申し上げます。



EPFL 学生と東工大スタッフの集合写真

EPFL

<http://www.epfl.ch/index.en.html>

若手研究者国際的・トレーニング・プログラム

<http://www1.bio.titech.ac.jp/itp/index.html>